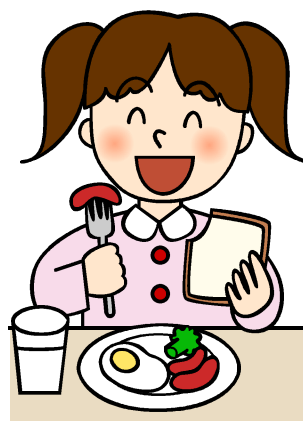
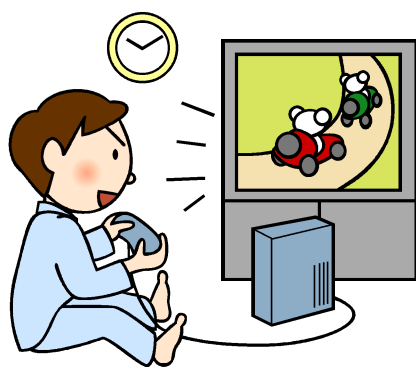


令和2年度

学校保健委員会 すこやか会議資料



令和2年11月13日（金）
郡山市立行徳小学校

令和2年度定期健康診断の結果

(1) 身体測定の結果（全国・県平均との比較）

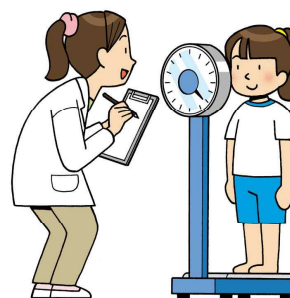
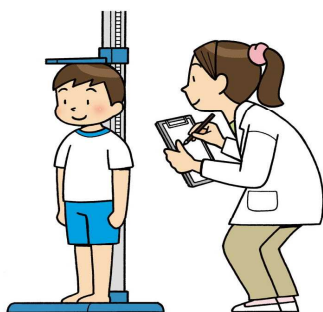
県・全国の数値はR元年度のもの

△県・全国平均を上回っている

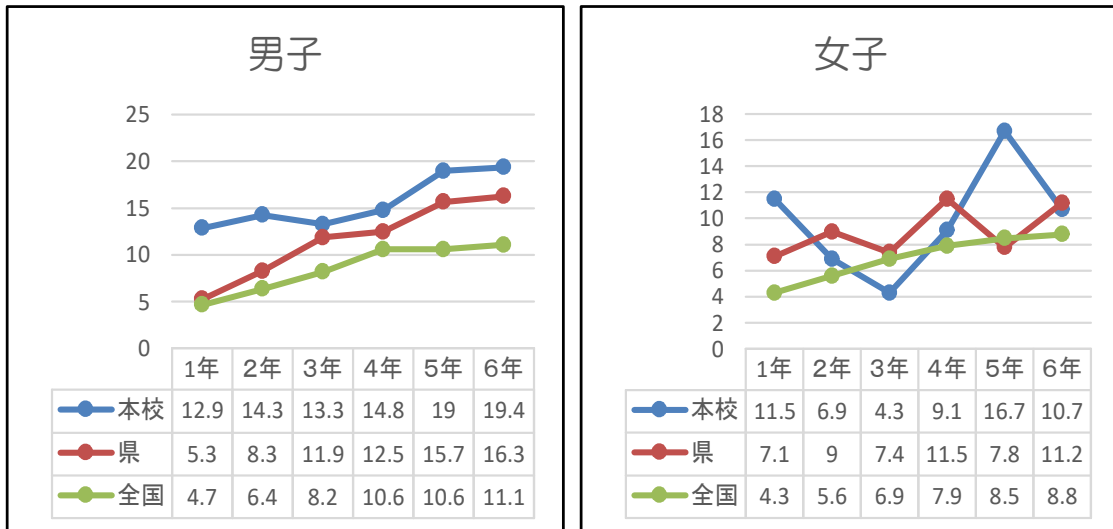
▼県・全国平均を下回っている

学年	性別	男子		女子	
	区分	身長	体重	身長	体重
1年	行徳小	▼116.2	△21.9	▼115.5	21.2
	県	116.8	21.8	115.7	21.3
	全国	116.5	21.4	115.6	20.9
2年	行徳小	▼121.1	24.2	121.5	23.9
	県	122.4	24.5	121.9	24.0
	全国	122.6	24.2	121.4	23.5
3年	行徳小	128.1	△28.3	▼126.9	26.7
	県	128.7	28.2	127.8	27.2
	全国	128.1	27.3	127.3	26.5
4年	行徳小	▼133.3	31.0	133.4	△31.3
	県	133.7	31.4	133.4	30.7
	全国	133.5	30.7	133.4	30.0
5年	行徳小	△139.3	△36.0	△140.6	△36.9
	県	139.1	35.1	140.5	34.5
	全国	139.0	34.4	140.2	34.2
6年	行徳小	▼143.5	39.1	▼146.0	39.6
	県	145.5	40.4	147.2	40.3
	全国	145.2	38.7	146.6	39.0

- ・ 5年男子・5年女子は、身長・体重とも県・全国平均を上回る。
- ・ 1年男子は、身長は県・全国平均を下回るが、体重では平均を上回る。
- ・ 1年女子・2年男子・3年女子・4年男子・6年男子・6年女子は、身長は県・全国平均を下回る。

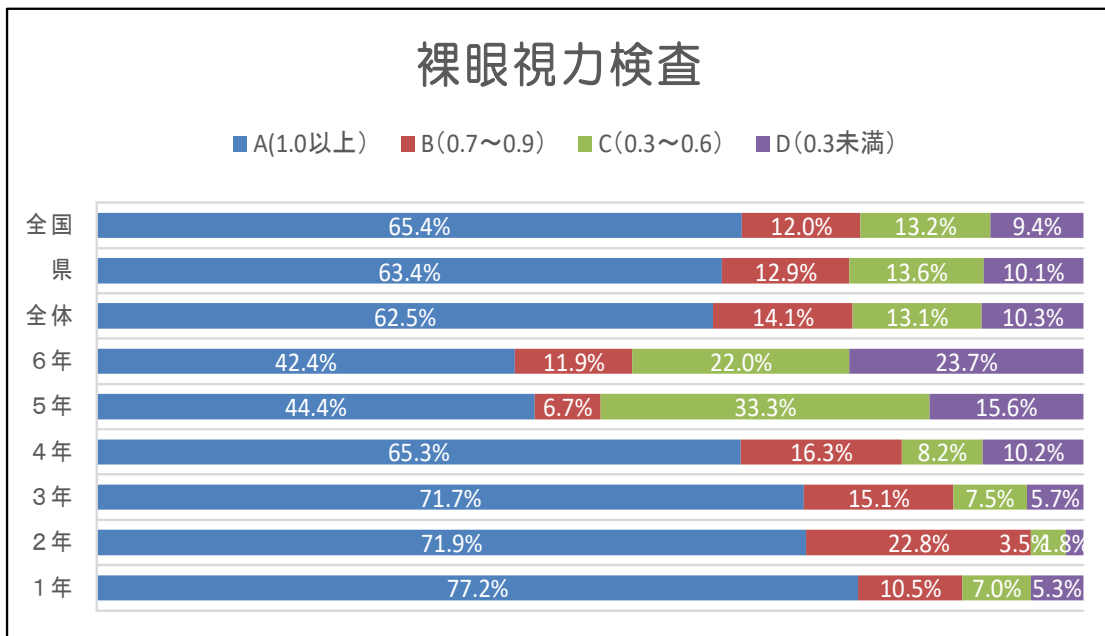


(2) 肥満度20%以上の児童（県・全国平均との比較）

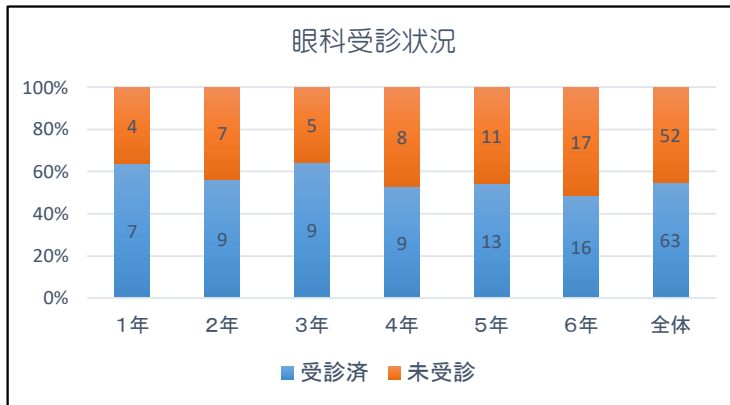


- ・身体測定の結果、男子は全学年で県・全国平均を上回る。女子は、1年・5年の肥満の割合が多い。
- ・全体では、肥満傾向の児童は41名（12.8%）いる。令和元年度は38名（12.5%）、平成30年度は33名（11.1%）、平成29年度は29名（9.5%）で、増加傾向である。
- ・4月の身体測定の結果、肥満度20%の児童には、受診勧告書を配付した。そのうち、病院を受診した児童は11名（27%）だった。高度肥満の児童は、受診していない。

(3) 視力検査の結果



- ・県・全国と比較すると、視力低下者（B～D）が多いことがわかる。特に5・6年の視力低下者が多い。



・視力低下者（B～D）の児童には、受診勧告書を配付した。そのうち、病院を受診した児童は63名（54.8%）だった。昨年度の受診率は61.9%であり、受診率の低下がみられた。



（４）眼科検診の結果

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
眼瞼炎		1			1		2人

欠席者7名

眼疾患罹患率全国・県との比較

	令和2年度本校	令和元年度県	令和元年度全国
眼の疾病・異常	0.6%	2.7%	5.6%

（５）内科検診・結核検診・運動器検診・心電図検診

	アトピー性皮膚炎	心雑音	ぜんそく	結核要精検	運動器要精検	心電図要精検
1年	3					
2年	1					
3年						
4年	1					1
5年	1				2	
6年	4				1	
計	10人	0人	0人	0人	3人	1人

欠席者なし

- ・アトピー性皮膚炎と診断された児童が多い。
- ・結核検診の要精検はいない。
- ・運動器検診と心電図検診の要精検の児童は、未受診である。

（６）耳鼻科検診・聴力検査結果

	アレルギー性鼻炎	慢性鼻炎	耳垢	耳内異物	扁桃肥大	聴力要精検
1年	5		9			1
2年	1				1	
3年	11	2	4	1	1	
4年				1		
5年					1	2
6年						
計	17人	2人	13人	2人	3人	3人

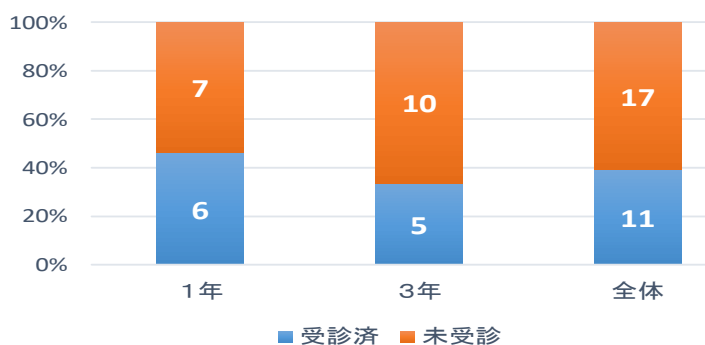
欠席者5名

・アレルギー性鼻炎・耳垢と診断された児童が多かった。

	令和2年度本校	令和元年度県	令和元年度全国
耳疾患	12.7%	4.9%	6.3%
鼻・副鼻腔疾患	16.1%	9.7%	11.8%
口腔咽喉頭疾患・異常	2.5%	2.2%	1.3%
難聴	1.4%	0.5%	0.6%

・県・全国と比較すると、全項目で平均を上回っている。

耳鼻科受診状況



・異常を指摘された児童には、受診勧告書を配付した。そのうち、病院を受診した児童は11名(39.3%)だった。昨年度の受診率は78.9%であり、受診率の低下がみられた。



(7) 尿検査結果

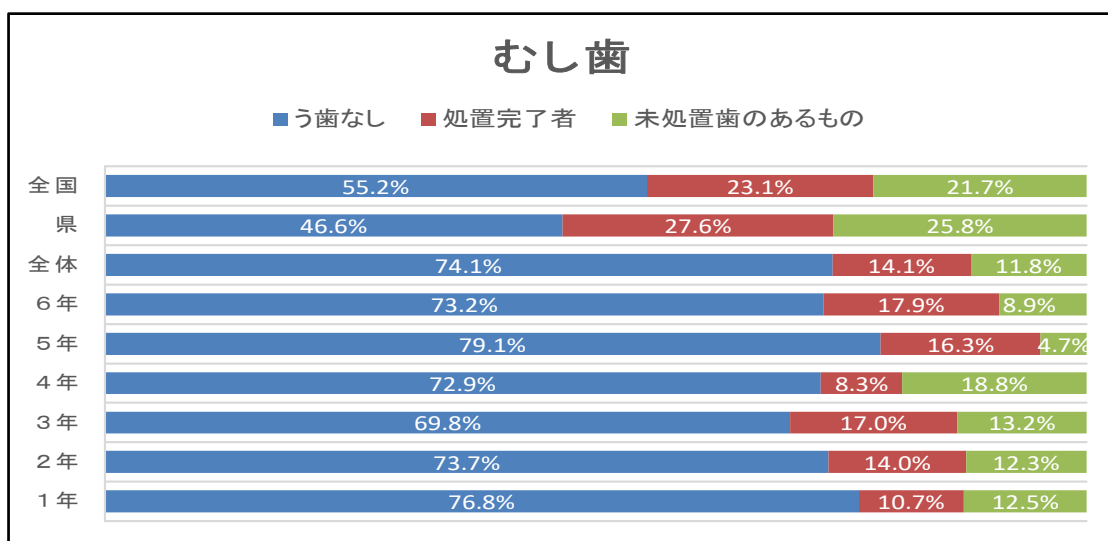
	糖	蛋白	潜血
1年	0	0	0
2年	0	0	0
3年	0	0	0
4年	0	0	0
5年	0	0	0
6年	0	0	0
計	0	0	0



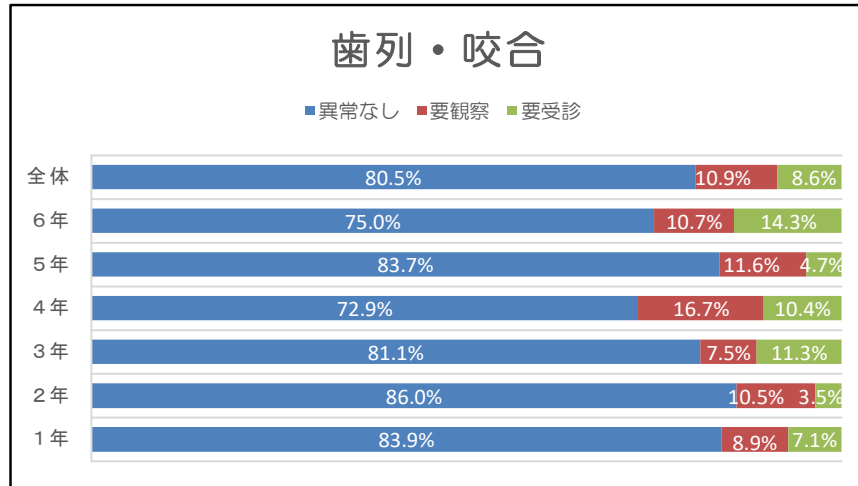
・尿検査の結果、要精検児童はいなかった。

未検査1名

(8) 歯科検診の結果

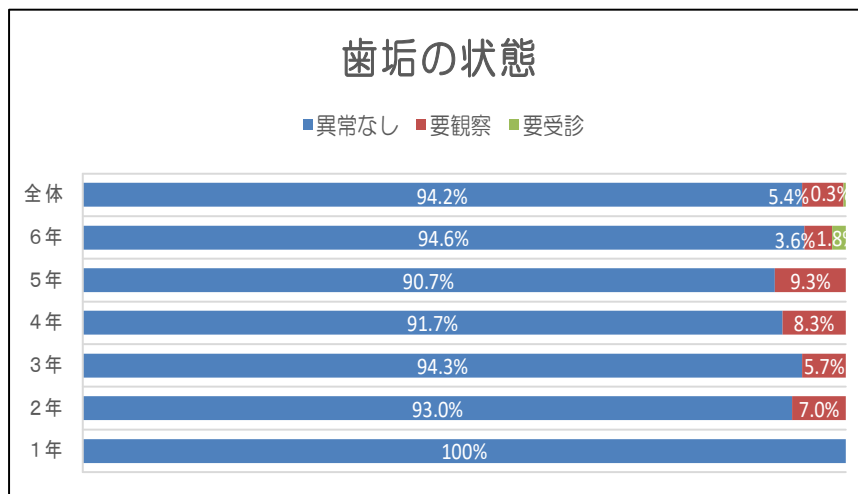


- 全国平均のう歯罹患率（未処置歯のあるもの）と比較すると、低いことがわかる。
- 全国平均のう歯なし率と比較すると、かなり高いことがわかる。
- むし歯なし児童は、232名で全体の74.1%だった。昨年のむし歯なし児童は65.2%で増加傾向がみられた。



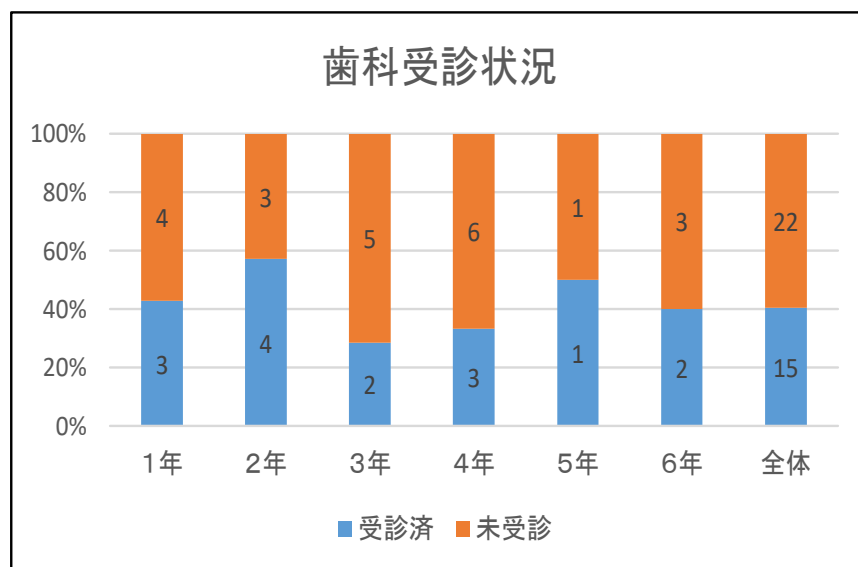
全国の要受診
5.0%

本校で、要受診と診断されている児童は、全国よりも3.6%高い。特に、6年生の割合が高い。



全国の要受診
3.1%

本校で、要受診と診断されている児童は、全国よりも2.8%低い。特に、1年生の要受診はいない。



• むし歯がある児童のうち、病院を受診した児童は15名（40.5%）だった。昨年度の受診率は57.1%であり、受診率の低下がみられた。

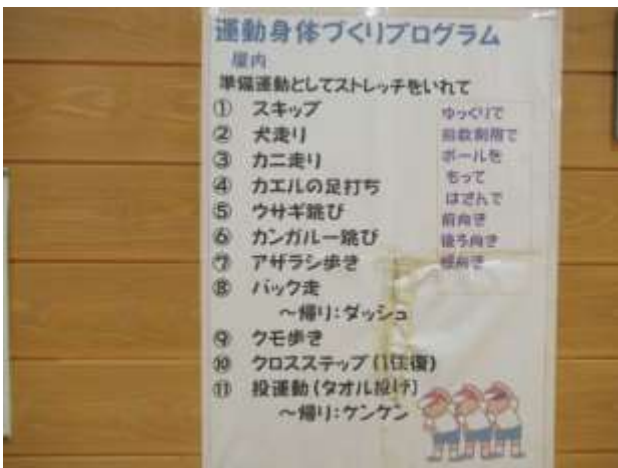


体力・運動能力向上へ向けた令和2年度の取組

◎今年度はコロナ渦での取り組みとなり、体力向上に重点をおいた体育指導を実施することとした。

1. 授業の中で

① 運動身体づくりプログラム（全学年 体育の授業）



② 体力の向上を図る指導（体力テスト、ラジオ体操、水泳）



3月の臨時休業、4月～5月の臨時休業により、どの学年も体力低下が見られた。「疲れました」の連発) そのため、普段の体育の授業の際に、運動身体作りプログラムやラジオ体操などを意識して取り入れ、バランスよく体を動かせる体作りを目指し、体力の向上を図るようにした。

2. 行事等

① 学年運動会



② マラソンタイム



③ なかよしタイム



3. その他



コロナ渦の中で、例年通りの運動会は実施できなかったが、学年ごとの運動会を実施した。参加種目が増えたことで、運動への関心が高まった。

自分手帳や運動の記録を活用しながら、今後も家庭と連携した体力向上を目指していきたい。

◎ 本校の食育について

【食に関する指導の目標】

(知識・技術)

食事の重要性や栄養のバランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるようにする。

(思考力・判断力・表現力等)

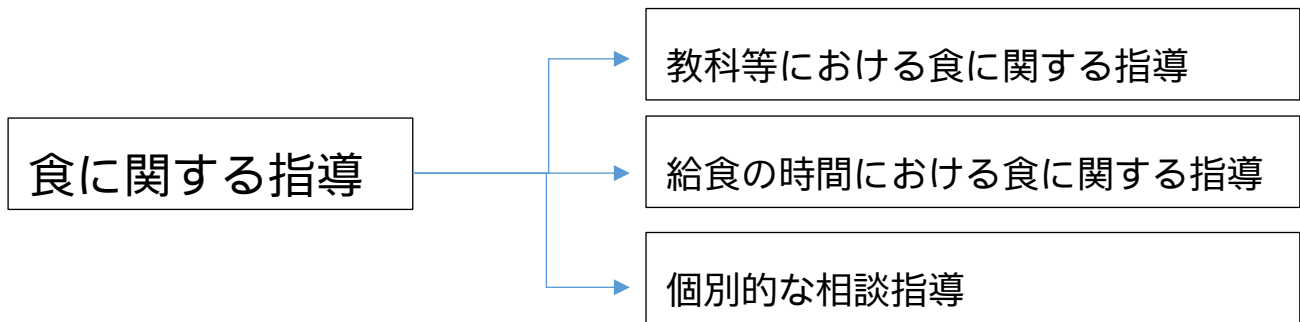
食生活や食の選択について、正しい理解・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。

(学びに向かう力・人間性等)

主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。

【食育の視点】

- ア 食事の重要性 (食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。)
- イ 心身の健康 (心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の取り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。)
- ウ 食品を選択する力 (正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。)
- エ 感謝の心 (食べ物を大切にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。)
- オ 社会性 (食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。)
- カ 食文化 (各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。)



【 本校の実態と重点目標 】

《実態》(朝食調べ関係は昨年度の結果)

* 朝食欠食児童	2%	* 朝食の野菜摂取率	54%
* 朝食の汁物摂取率	45%	* 昼食以外の共食の割合	78%
* 給食の残食 (今年度)			
最も少ない日	3kg	最も多い日	17kg
10kgを超える日はすべて和食メニューの日			

《 課題と重点目標 》

- 毎日朝食を食べる児童が多いが、野菜や汁物の摂取率が低い。給食でも、野菜が多く使用される和食メニューでの残食が多い。
- 食育の視点ア、イ、ウについての指導を重点化して行う必要がある。

「コロナ禍におけるメディア視聴等の実態調査」の結果について

調査回答数：計 285

1年・・・51

2年・・・54

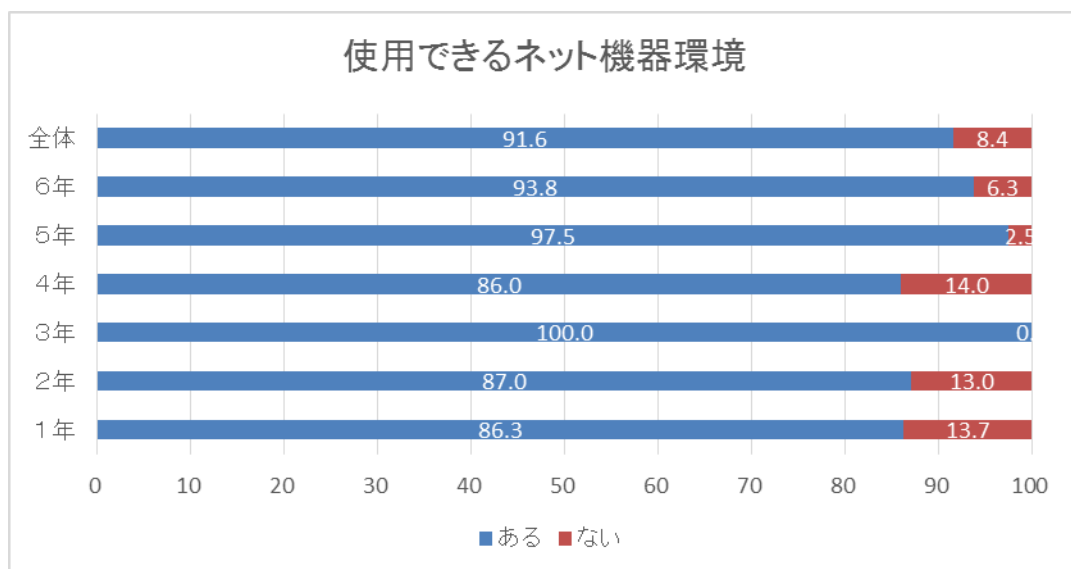
3年・・・50

4年・・・42

5年・・・40

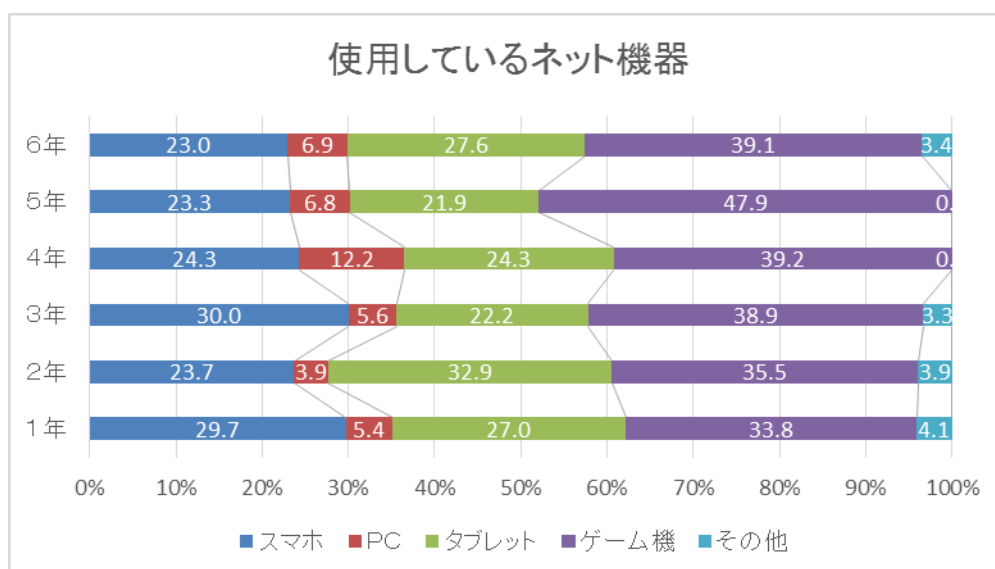
6年・・・48

<資料1>



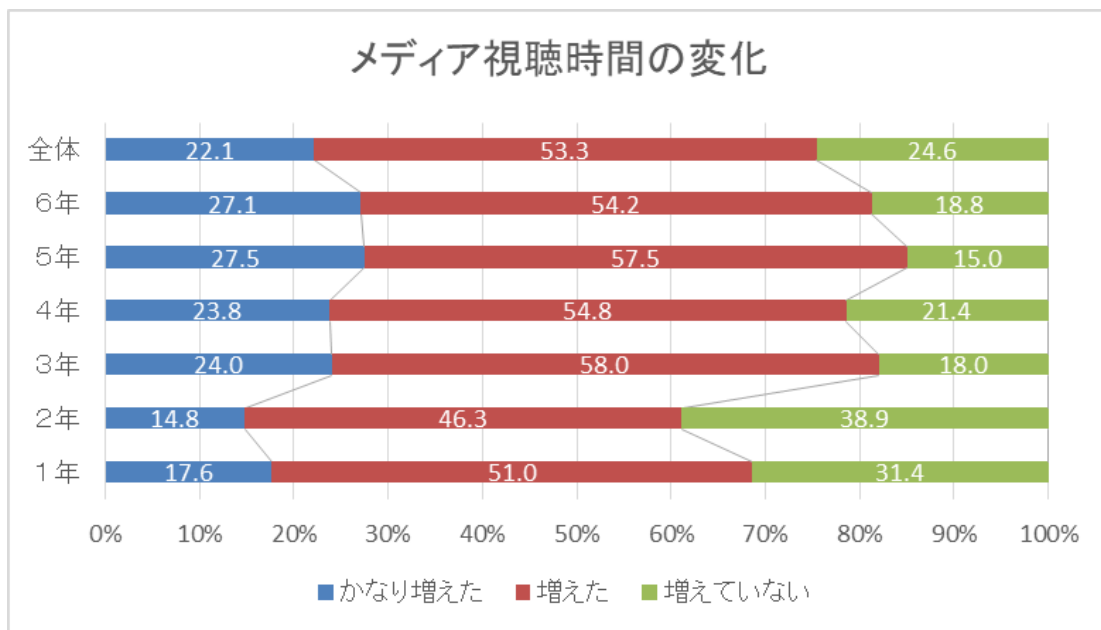
全学年85%以上の児童が何らかのネット機器が使用できる環境にあることが分かった。3年生で100%、次いで5年生97.5%、6年生93.8%とかなり高い数値となっている。全国的にネットの利用率が増加の傾向にあり、本校でも同様の結果が見られた。

<資料2>



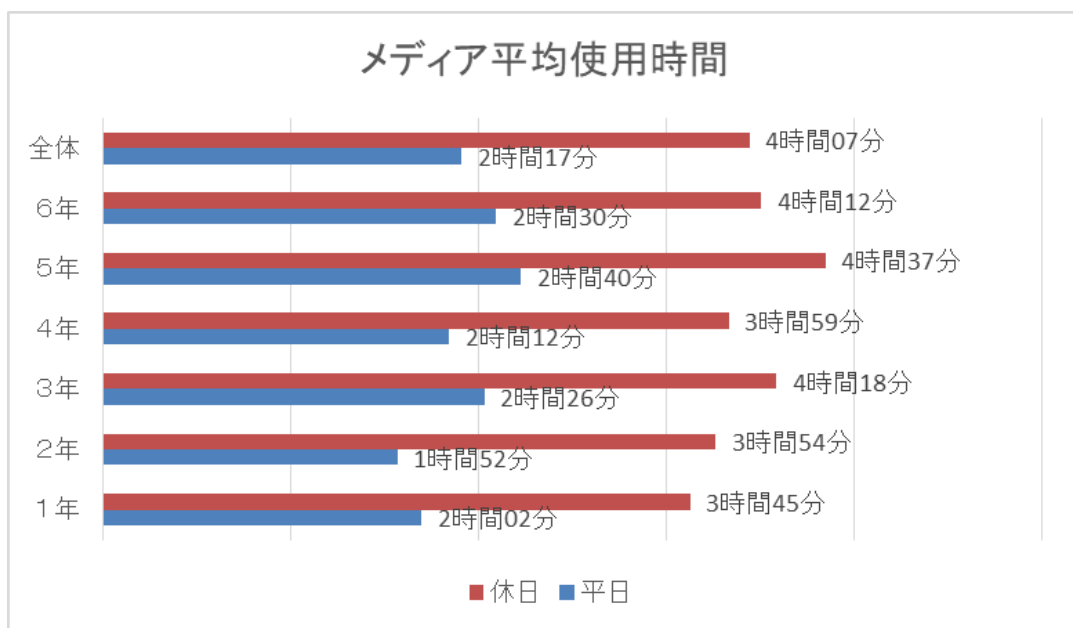
どの学年も1位はゲーム機器。機能が充実し、ネットに繋がって話したり、一緒にゲームをしたりすることを楽しむお子さんも増えてきている一方、遅くまで起きていたり、友達間でトラブルになったりなどの問題も起きている。

<資料3>



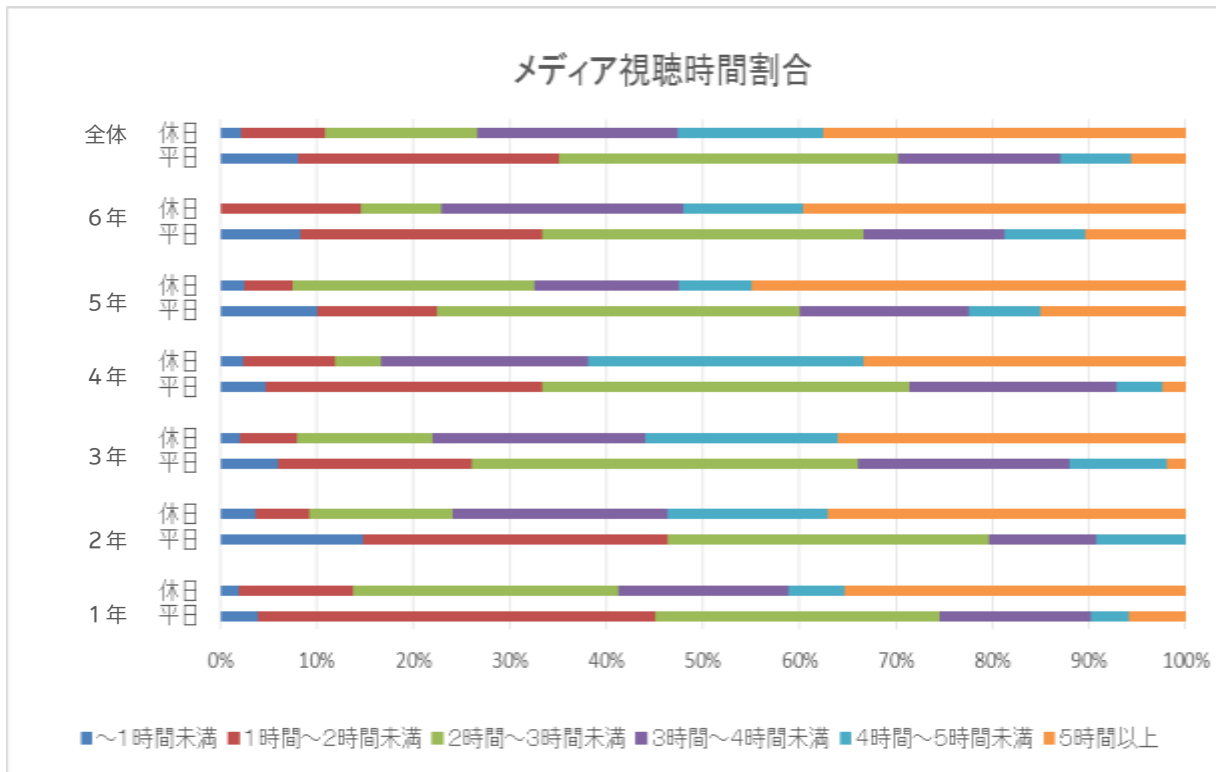
全体で約75%の児童が「かなり増えた」「増えた」と回答している。コロナ禍で外出を控える家庭もあり、その影響も大きいと考えられる。3年生以上が特に増加の傾向にある。

<資料4>



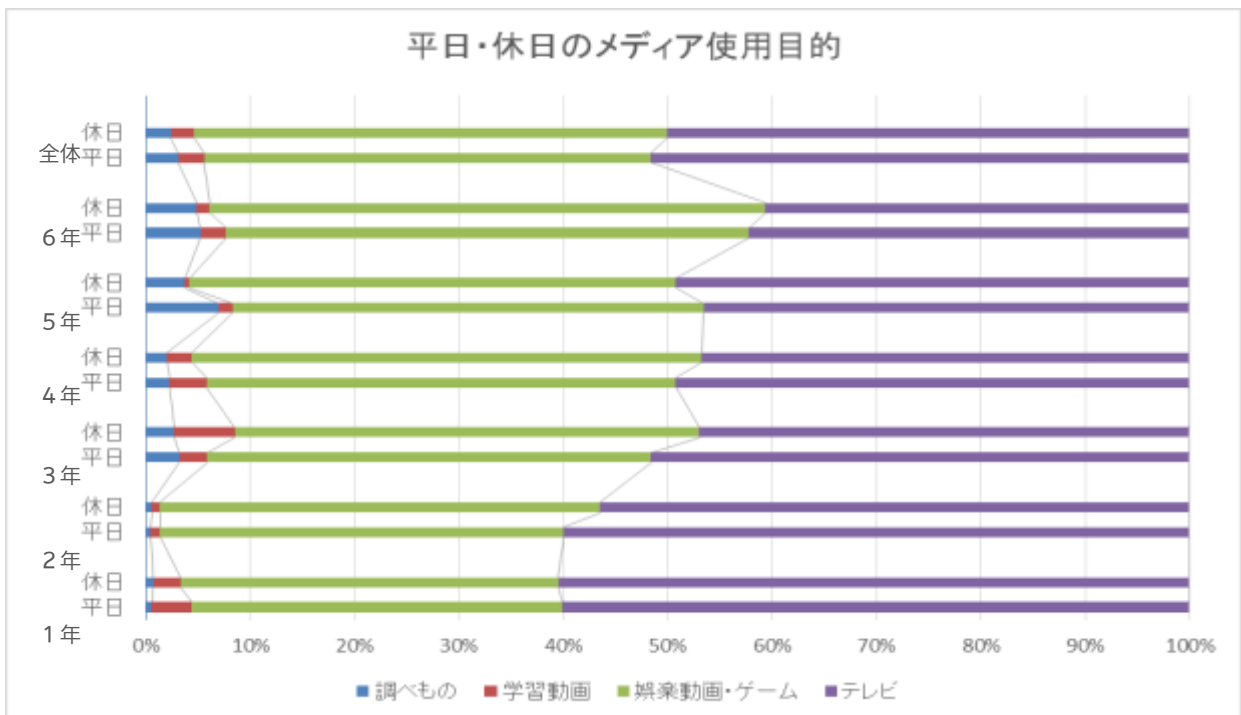
メディア等の視聴時間の平均時間を見ると、休日は平日の約1.8倍。2年生が約2倍と若干多かった。

<資料5>



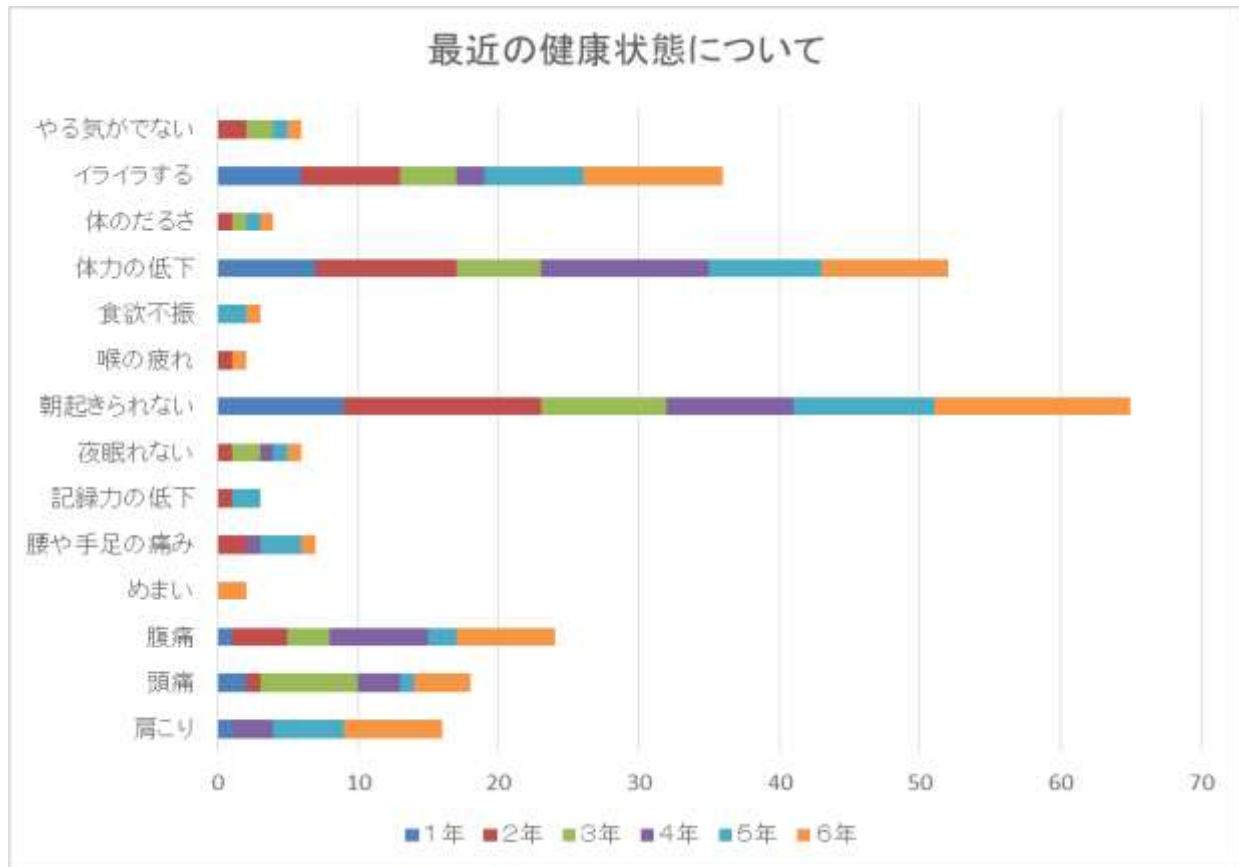
日本小児科医会では「1日2時間以内が目安」と提言されているが、3時間を超える時間視聴している児童が平日でも約30%、休日には約70%いた。休日は、10時間以上視聴している児童が3%。

<資料6>



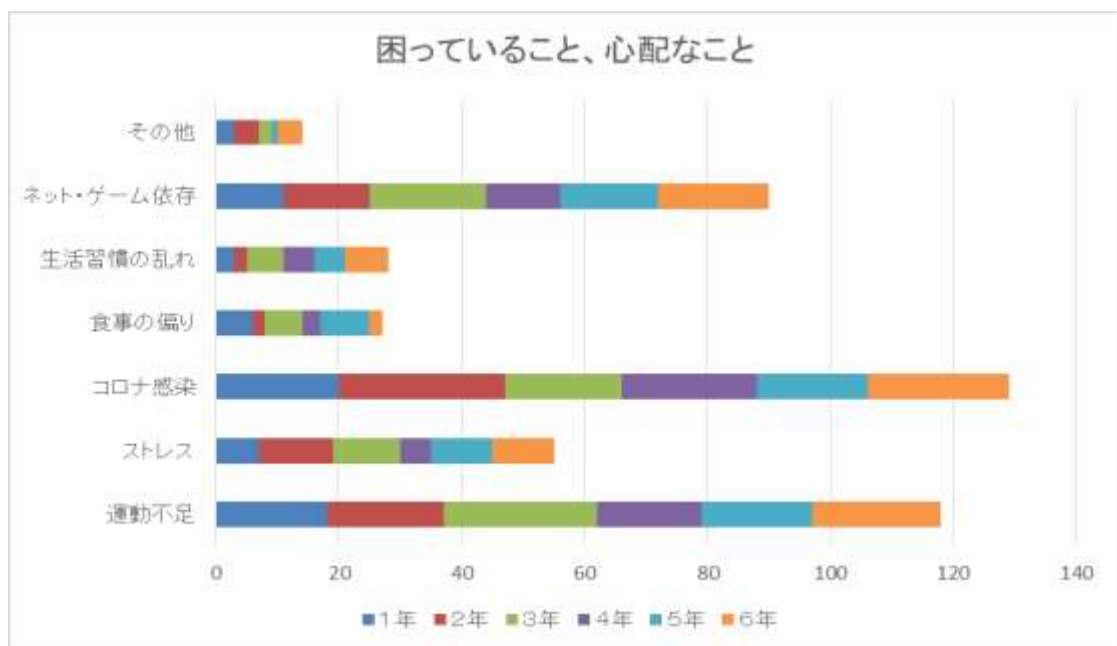
3年生を除き、休日は「調べもの」「学習動画」の使用が減少し、「娯楽動画・ゲーム」「テレビ」の使用時間が増えている。どの学年も「調べもの」「学習動画」は10%未満にとどまった。低学年は「テレビ」の視聴割合が多く、3年生から「娯楽動画・ゲーム」の割合が増えはじめ、6年生では逆転している。

<資料7>



どの学年も「朝起きられない」が1番多い。体の不調ばかりでなく、「イライラする」など精神面での不調を訴える児童も多かった。

<資料8>



コロナウィルス感染への不安はもちろんだが、次いで「運動不足」「ネット・ゲーム依存」「ストレス」についての不安が多かった。